

新しい仲間が増えました！

白州町に移住して早半年が経とうとしています。この4月に長年住み慣れた神奈川県横浜市から、子供と自然に触れた生活がしたい、おいしい野菜を食べて育てたいとの思いもあり、生まれ育った地元である白州町に18年ぶり戻ってきました。

白州森と水の里センターでは主に経理事務を担当し5ヶ月がすぎましたが、毎日忙しく働かせていただいております。特に夏季の繁忙期では限られた人数で日々の事務処理と収穫・パック・接客と不慣れではありましたが、良い経験させてもらいました。これからも白州の森と新鮮野菜に触れながら、微力ではありますが貢献できればと思います。みなさん今後ともよろしくお願いいたします。

(市成 智江)



こんにちは。品田幸子と申します。

私は食べることが大好きです。食べ物は私たちを作り出している大事なものだと思います。おっぱに亭はそこを真剣に考え生産しているところであり、その一員として働けることに感謝しています。

消費者の一員であることも忘れず、どちらかの一方通行にならないように考えて行動ができるように心がけて行きたいと思います。よろしくお願いします。

ありがとうございます。(品田 幸子)

大好きな地元に関わる仕事に就きたいと思い、ここに辿りつきました。大自然と優しいひとたちに囲まれた仕事はとてもやりがいがある毎日です。おっぱに亭の食堂のほかに、畑での収穫や野菜のパック詰めなどしていると、食材に対する感謝が余計に生まれます。これから私自身たくさんのことを学びながら、お客様においしいものを提供できるよう頑張っていきたいです。(向井 美咲)



加工場だより ～秋の加工場の様子

白州郷牧場内の加工場。といっても、普段誰も足を踏み入れることのないその加工場では、日々見田さんと私とでぼちぼちとあれこれやっています。

何をやっているか まずは、お店で販売している製品づくりです。

冬場は主に麺や味噌づくりですが、その間も年間を通して甘酒や塩麹、甘糰、更にそれらを使った唐辛子味噌やにんにく塩麹など、いくつかの製品づくりがあります。

次に、牧場で収穫された、形・大きさが出荷に適さな

い野菜の加工です。加工場にやってきた野菜達は、ほぼ漬物になります。夏は巨大なきゅうり、水なす、きゅうり、水なす…たまにズッキーニ。これも巨大でした！大抵、処理に時間を費やしています。

2人では時に大変な作業ではありますが、これが醍醐味でもあります。原料から製品が出来ていく喜び、満足感、そこに関わる充実感。文章にすると表現が大げさではありますが、例えば、干しものをした時の(この前は塩漬けのしそを干しました)乾いて取り込む時！あの時は本当に嬉しい瞬間です。

季節が進み、すぐにまた厳しい冬がやって来ます。まずは麺づくりの準備からはじめていきます。

(福井 直美)



白州 ガーデン・ポタジェ通信

育苗していたコスモスをひまわりの跡地に定植しました。アスターが咲きはじめ、秋を感じます。その他、秋作の育苗や定植を進めています。

facebookで、最新情報をご報告していきます。



www.facebook.com/hakusyugou.bokujo

●白州だより

白州郷牧場から秋のおたよりをお届けします！

<http://www.hakusyu.jp/> info@hakusyu.jp

2014年9月8日

二十四節気 白露

発行 白州郷牧場

山梨県北杜市白州町横手 2259

TEL : 0551-35-4520

FAX : 0551-35-0132



白州 ガーデン・ポタジェのアスター

虞美人草

白州郷牧場グループ代表 椎名 盛男

いつも通う村道に、毎年、虞美人草が咲く場所があった。その花が昨年から咲かなくなった。今年は咲くかもしれないと待っていたが花は戻って来なかった。きっと、心ない別荘族がシャベルで株ごと掘って持ち去ったのだろう。

この花が咲いている時は、しばらく立ち止まり虞姫を想いおこし、項羽に思いをはせてひと時をすごすのが日課であった。

劉邦が始皇帝のあとを継ぐ革命児であったかは別にしても(たぶんちがうだろう)項羽は明らかに反革命の英雄

であったことはまちがいない。彼の夢は、中国を始皇帝以前の六国の時代に返し、霸王となることであった。

江東から7,000の健児と共に秦と漢の時代の間を駆け抜け垓下に散った。本当に駆け抜けていったと言いがたい。

奪われた私の時間と季節をとり戻すため来年にかけてひなげしの花を植えようと思っている。虞美人草の和名はひなげしである。



キララ夏の学校 2014



8月1日から7日まで、キララ夏の学校が開催されました。総勢40名の子供たちが集まり、にぎやかな一週間となりました。今回のテーマは「白州での生活を楽しむ」。ここ白州には山があり、川があり、森があります。こうした里山の自然・環境そのものが素晴らしい教材になると

考えて、プログラムやスケジュールの進行をきっちりこなすのではなく、自由に遊べる時間、創意工夫をする時間をたくさんとるようにしました。

初日は竹の食器づくりからはじまりました。夏の学校では、毎日使う食器は自分たちで作ります。山から竹を切り出してくることから加工まで、みんなやりきりました。のこぎりも小刀もナタも、子供たちにとっては使う機会の少ない道具ばかりです。はじめからうまく完成させるのは難しいので、いつでもお手入れができるように道具を置いておくと、自分からお手入れをしたり、作り直したりしている子供たちが多くいました。

今回は川遊びの時間をたくさんとりました。堰堤からジャンプをする遊びが子供たちは大好きです。2回にわたって川から歩いて宿舎に帰らせてみました。1時間以上かかる道のりで、子供たちには大変だったかもしれませんが、最後まで歩ききれたら褒美がもらえるようにしたところ、ほとんどの子供たちが見事に歩ききりました。



今年の登山は編笠山に行きました。4年生から6年生までの子供たちが参加しました。「疲れた」、「もう歩けない」なんてブーブー言いながらも、山頂付近の岩場の別世界の様な景色に子供たちは大興奮していました。

低学年の子供たちは、今年からできたガーデンボタジェでお絵かきをしました。実際に畑に行き、スケッチをするところからはじまり、図書館で着色をしました。こだわって描く子、すぐに飽きてしまって遊びはじめる子など、楽しみ方はそれぞれでしたが、のんびりすごしていました。

畑仕事ではとうもろこしの収穫が大好評でした。とれたてのトウモロコシはみずみずしい甘さがあって、生でも食べられます。子供たちも喜んでほおばっていました。ジャガイモ掘りも炎天下の下で泥だらけになりながらよくがんばっていました。

最終日のキララ祭では各班に分かれて模擬店がひられました。たき火を起こしてジャガバター、チョコバナナやフルーツの生ジュースなどなど、子どもらしいお店が並びました。大人たちも出店し、お好み焼きや牧場の鶏肉をつかった手羽先が出ていました。

一週間の滞在は子供たちにとっても長丁場です。特に始めて親元を離れる1,2年生にとっては少しハードだったかもしれません。慣れない集団生活で戸惑っている子もいました。帰りの車中ではさすがにぐったりしていましたが、日常にはない里山の自然を満喫できたのではないのでしょうか。

(内藤 光)



キララ秋の学校の募集開始！

秋の里山の収穫祭！ 日程は、2014年10月11日～13日です。
詳しくは、同封のチラシをご参照ください。

キララ夏の学校日程

8月1日 (金)	8月2日 (土)	8月3日 (日)	8月4日 (月)	8月5日 (火)	8月6日 (水)	8月7日 (木)
6:00 起床 清掃 採卵・鶏講座 朝食	6:00 起床 清掃 採卵・鶏講座 朝食	6:00 起床 清掃 採卵・鶏講座 朝食	6:00 起床 清掃 採卵・鶏講座 朝食	6:00 起床 清掃 採卵・鶏講座 朝食	6:00 起床 清掃 採卵・鶏講座 朝食	6:00 起床 清掃・朝食 農作業 ～いんげんの収穫
竹の食器づくり	スケッチ ～ガーデン・ ボタジェ	登山 編笠山	農作業 ～とうもろこしの 収穫	農作業 ～じゃがいもの 収穫	川遊び	片付け・荷造り 作文
昼食～お弁当 開校式	昼食 物理の話	昼食	川で昼食	川で昼食	昼食	昼食 閉校式
竹の切り出し・ 運搬	白州シアター 「WATARIDORI」	スケッチ 着色	川遊び	川遊び	キララ通貨査定 キララ祭り準備	
竹の食器づくり					キララ祭り キャンプファイヤー	
お風呂・夕食 自己紹介	お風呂・夕食 班会議	お風呂・夕食 班会議	お風呂・夕食 班会議	お風呂・夕食 班会議 キララ会議	お風呂	

大雪、その後...

大雪、今は遠い昔のようにも感じます。

山梨県を襲った歴史的な大雪は2月。その後、倒壊施設の解体、手作り鶏舎の建設、新しい雛鶏の導入、施設再建に向けた企画・調整、春野菜の準備や収穫、夏野菜の準備から収穫、等々。大雪の被害を乗り越えようと、作業に明け暮れる毎日。振り返れば季節が、春から夏へと巡り、この原稿を書いている今、窓から外を眺めるとすでに初秋の空気が流れています。あ、っという間の半年でした。

加えて、この夏は7月はほとんど雨が降らず、8月はお日様が顔を出してくれる日が少ない不順な天候で、作物の生育にも少なからぬ影響が出てしまいました。人間の思うようには運ばせてくれない自然の厳しさを、冬の大雪にとどまらず痛感させられる、この夏でした。

そんな中でも、雪害前の姿を取り戻しつつある、今の白州郷牧場です。

資材や作業員さんの確保の問題もあり、急ピッチとは参りませんが、一歩ずつ着実に復旧・再建が進んでいます。鶏舎の復旧は残すところあと一つとなり、雪害後に導入した雛鶏は成長し、元気にたまごを産み始めています。野菜用のハウスの復旧も残り二区画。復旧ハウスで育てる予定のサンチュの種まきも済ませました。元の姿を取り戻しながら、雪害前の生産量を回復させ、安心・安全な作物を皆様にお届けできるよう、スタッフ一丸となって取り組む毎日です。来年以降チャレンジしたい新しい作物にも思いを巡らせています。

大雪。私たちに厳しい試練を与えましたが、これまでの経営や働き方を見直すきっかけも与えてくれたような気がしています。そして何より、私たちの野菜やたまごが、多くの皆様に愛されていること、そしてその皆様と深く繋がっていることを、改めて気付かせてくれました。雪害を乗り越えたその先に、野菜やたまごを食して下さる皆様ともっと強く、深く繋がる牧場の姿を思い描きながら、作業にあたる毎日です。

日本農業新聞 2014年7月17日掲載▼

農業新聞 (第3種郵便物認可)

雪害克服へ「前向こう」

2月の記録的な大雪から5カ月余り。被災地は、倒壊したハウスの再建を急ぐ。資材・人手不足が依然大きな課題だが、再建は徐々に進んでいる。



椎名さんが陣頭指揮して建てた間伐材の鶏舎（山梨県北杜市で）

鶏舎の復旧着々 消費者も助っ人に

山梨県北杜市の産直グループ白州郷牧場が、2月の大雪で被災したパイプハウスの鶏舎などの再建を進めている。木造鶏舎を建て、鶏舎をしのぎ、いち早く県外の建設業者にハウスの再建を依頼。6月までに鶏舎9棟のうち4棟が完成し、7月中旬に全9棟ができる見通しだ。ハウスの撤去・解体にボランティアとして駆け付けた消費者との絆の強さをかみしめ、再建を急ぐ。

同社は、パイプハウスの再建を依頼した「もみじ」を飼育している。1000羽の鶏を飼育している。鶏舎の復旧は残すところあと一つとなり、雪害後に導入した雛鶏は成長し、元気にたまごを産み始めています。野菜用のハウスの復旧も残り二区画。復旧ハウスで育てる予定のサンチュの種まきも済ませました。元の姿を取り戻しながら、雪害前の生産量を回復させ、安心・安全な作物を皆様にお届けできるよう、スタッフ一丸となって取り組む毎日です。来年以降チャレンジしたい新しい作物にも思いを巡らせています。

大雪。私たちに厳しい試練を与えましたが、これまでの経営や働き方を見直すきっかけも与えてくれたような気がしています。そして何より、私たちの野菜やたまごが、多くの皆様に愛されていること、そしてその皆様と深く繋がっていることを、改めて気付かせてくれました。雪害を乗り越えたその先に、野菜やたまごを食して下さる皆様ともっと強く、深く繋がる牧場の姿を思い描きながら、作業にあたる毎日です。

(こさい たろう)

秋作の準備中！

秋では、白菜・大根・コカブ・ほうれん草・小松菜・水菜・二十日大根などを作っています。堆肥散布・耕運・播種・定植とやることもあり、白菜では土が入った小さなポットに一粒ずつ種を入れて苗を作るところから始まります。堆肥をまき耕運した畑にうねをたてて白菜を定植していきます。大根やほうれん草などは播種機を使い畑に直接種をまいていきます。今年は天気が悪く雨降りが多くてなかなか堆肥散布や耕運が思うように出来なくて困りました。秋は、播種・定植が遅れると作物がなかなか成長しづらく、急いで種まきをしています。種をまき除草して収穫した物が多いのちに届くように頑張っています。

(阿部 孝)



白州郷牧場からおいしい！楽しい！をお届けします。



9月になり、秋作野菜の準備が進んでいます。

現在、種まきと定植を進めている根菜や葉もの類がセットに入るのはいくつか先ですが、白州の季節を感じる野菜セットはいかがでしょうか。雪害後、建て直した新しい鶏舎で、のびのび気持ち良さそうな鶏たちの玉子もお届けします。

野菜セットと平飼い玉子は、白州郷牧場ホームページ内オンラインショップからご注文いただけます。

- ・白州直送野菜フルセット～平飼い玉子10個+旬のお野菜と加工品(10品)
2,800円(税抜・箱代・送料・クール料込) 税込価格: 3,024円
- ・白州直送野菜ミニセット～平飼い玉子6個+旬のお野菜と加工品(5～7品)
1,800円(税抜・箱代・送料・クール料込) 税込価格: 1,944円
- ・平飼い玉子20個パック 1,200円(税込・送料別)
- ・平飼い玉子30個パック 1,800円(税込・送料別)
- ・平飼い玉子60個パック 3,600円(税込・送料別)



オンラインショップはコチラ！



白州郷牧場ホームページ <http://www.hakusyu.jp/>



白州郷牧場で研修しています

山梨県立農業大学校専門学校2年 小林 陸

私は4月の29日から白州郷牧場というところに派遣研修(毎週火曜日祝日を除く)に来ています。なぜ私が白州郷牧場に研修にきているかと山梨県立農業大学校専門学校の先進農業派遣研修という授業で私は、白州郷牧場を研修先を選びました。

研修の最初の日は大雪でつぶれた鶏舎の柵など中の物を撤去をしました。そこには一匹取り残された鶏がいました。初めてやる作業だったので思うようには行かない

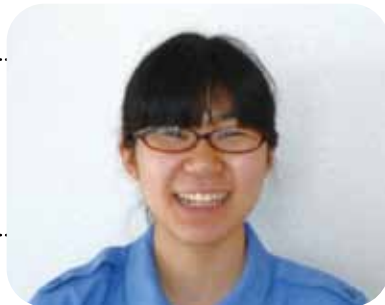
ものでした。二日目は新しい鶏舎作りで私は鶏の水やり設備の準備をしました、水やり設備だけでしたがこんな風に鶏舎などは作られていくんだと思いました。

三日目からは野菜の収穫、パック詰め、卵のパック詰め卵の収穫をやりました、それからは主に野菜の収穫をやって行くことになりました。

今では研修とバイトで毎週二日白州牧場に来ています。野菜の収穫などはまだまだなれないですが、自分の好きなことなので頑張ってやっていこうと思います。

感想—実習を終えて—

麻布大学 獣医学部 動物応用科学科4年 高田 麻由



電車を降りた瞬間、たくさんの自然の薫りが胸いっぱい流れ込んできたのが、初めて訪れた白州の地の印象でした。

実習生として白州郷牧場でお世話になりましたが、毎日が充実し、あっという間に過ぎた10日間でした。実習中は鶏の世話を中心にやらせていただきましたが、鶏に触れたことが数回しかなかったため、鶏舎で多くの鶏を目にし、「本当に10日間もやっていけるのだろうか」と不安になってしまいました。実際、採卵の時は鶏にどう触れていいかわからず、怖気付きながら卵を集めていました。しかしそのような不安も回数を重ねることになり、やがて腰に鶏が乗っていても気にならなくなりました。人懐っこい鶏ばかりのため、人を見ると集まってきたり、

体のあちこちをつついてくる様子はとても可愛い姿でした。

また畑で収穫作業もやらせていただきました。とれたての新鮮な野菜を初めて見て、その水々しさに感動しました。そしてその野菜はやはりとても美味しかったです。

白州郷牧場の方々には大変お世話になりました。色々と気にかけてくださったので、不自由なく実習を終えることができました。本当にありがとうございました。唯一の心残りは実習期間の9割が雨だったことと、おっぱに享ここの鶏カレーを食べることができなかったことです。次に訪れる時は晴れの日で、綺麗な山の景色を見て必ず食べようと思います。

農業研修生とボランティアバイト募集中！

日本有数の名水、南アルプスの山々、移り変わる四季の美しさ… BMW循環型の農業、野菜の栽培、平飼養鶏、生産から出荷、販売まで多岐にわたり経験できます。

下記、白州郷牧場ホームページにて、活動内容や応募方法などの詳細をご確認の上、メールにてご応募、またはお問い合わせください。

- 農業研修生募集内容 <http://www.hakusyu.jp/saiyou.php>
- ボランティアバイト募集内容 <http://hakusyu.jp/volbeit.php>

農業修行中！

あれから一年が経った。

8月30日、山梨県の甲斐市竜王で家族と新しい生活を始め、9月9日、北杜市白州町の白州郷牧場で働き始めた。農業の経験は一切なし、東京都心を離れて暮らしたこともなし、会社勤務の経験もほとんどなし。こんな自分に何ができるのか、本当にやれるのか、続けていけるのか。すぐに働き出さなければ生活を営めないという現実もあり、そんな不安を胸にしまい、清水の舞台から飛び降りた。

そして一年が経った。

季節のサイクルで動く農の現場を、まず一巡り経験したことになる。体得しなければならないことはまだまだ



山ほどあるが、もう「新人」とは言えない自分がここにいる。今の率直な気持ち。まず、ど素人の私を迎え入れてくれた椎名代表と、一から現場の作業を教えてくれている牧場の仲間たちに感謝。東京と政治から同時に離れた私を引き続いて励まし応援してくれる多くの友人に感謝。そして、何よりも先を見通せない決断にもかかわらず、縁もゆかりもない山梨で暮らすことに同意してくれた妻と子、家族・親族に心から感謝している。

これからの一年、その先。

皆さんに安心・安全、おいしい野菜やたまごを食して頂くため、牧場の運営状況をチェックする役割も新たに与えられた。与えられた役割を果たすことの中からも、社会のありようを見つめ、考察していきたいと心に秘めている。それが、私自身が農業の世界に飛び込んだきっかけの一つだから。

「思えば遠くへ来たもんだ」♪

中学生の頃から、なぜかこの歌が好きだった。今、自分と重ね合わせている。「故郷離れて6年目、遠くなるよな気がします」、詩の中にこんなフレーズがある。ここだけは違う。この里山と私の故郷である都会をもっと近づけたい、繋げたい。思いを新たにしている。

(小齊 太郎)



◀朝日新聞 2014年8月14日掲載